



2005年3月期
中間決算説明資料

平成17年3月28日

ケンコーマヨネーズ株式会社



平成16年9月期 中間決算概要

平成16年9月期の総括



当中間期のわが国経済は、企業収益の回復や設備投資の増加に伴い、個人消費にも改善の兆しが見えるなど全体としては緩やかな回復傾向に推移しました。

食品業界におきましても夏場の記録的な猛暑による追い風はありましたが限定的なものとなり、引き続き厳しい市場環境となりました。

このような状況の中で当社グループは、お客様の「安全、安心」へのニーズにお応えするため、トレーサビリティの構築に着手しました。これは食品会社が消費者に対する責務であると認識しているためであります。

また、「K R P 5 2 0」計画に基づき、生産改革推進による原価低減に努めると共に、物流費や販売促進費の圧縮を図って参りました。

この結果、当中間連結会計期間の連結売上高は250億2千9百万円（前年同期比1億4千9百万円、0.6%増）となりました。利益面につきましては連結経常利益は8億6千3百万円（前年同期比4億1千8百万円、93.8%増）、連結当期純利益は4億2千2百万円（前年同期比2億4千9百万円、144.2%増）となりました。

平成16年9月期 連結貸借対照表 (単位:百万円)



	今 期	前 期	増 減	備 考
流動資産	14, 688	14, 632	55	現預金の増加
固定資産	13, 566	15, 635	−2, 069	土地・建物の売却
資産合計	28, 254	30, 268	−2, 013	
流動負債	18, 529	18, 019	509	社債流動負債へ
固定負債	4, 481	5, 982	−1, 501	借入金の減少
負債合計	23, 010	24, 001	−991	
資本合計	5, 244	6, 266	−1, 022	前期構造改革による減少
負債・資本合計	28, 254	30, 268	−2, 013	

平成16年9月期 損益計算書 (単位:百万円)

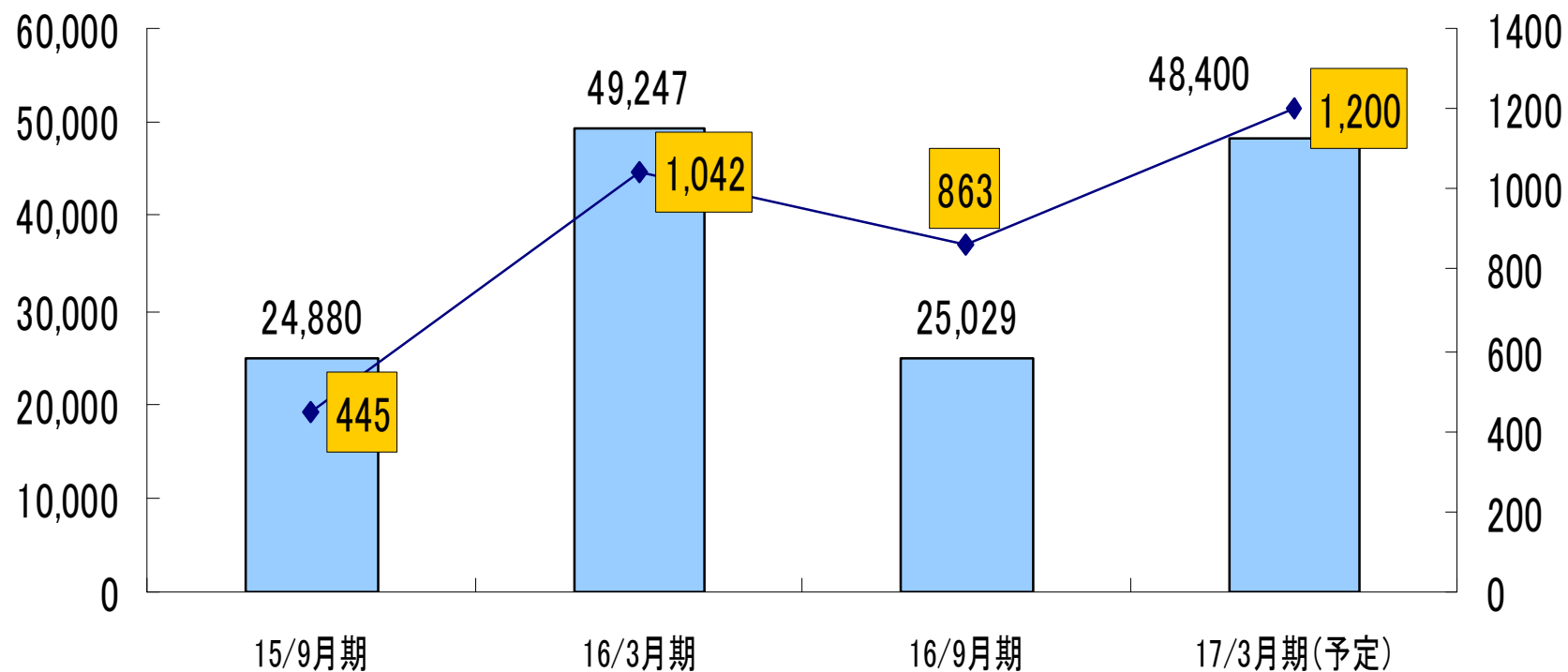


	16年9月期	15年9月期	前期比	備考
連結売上高	25,029	24,880	100.6%	
連結営業利益	947	512	184.8%	
連結経常利益	863	445	193.8%	
当期純利益	422	173	244.3%	
売上高(単体)	22,020	23,455	93.9%	
営業利益(単体)	819	416	196.7%	
経常利益(単体)	754	396	190.6%	
当期純利益(単体)	300	215	139.8%	



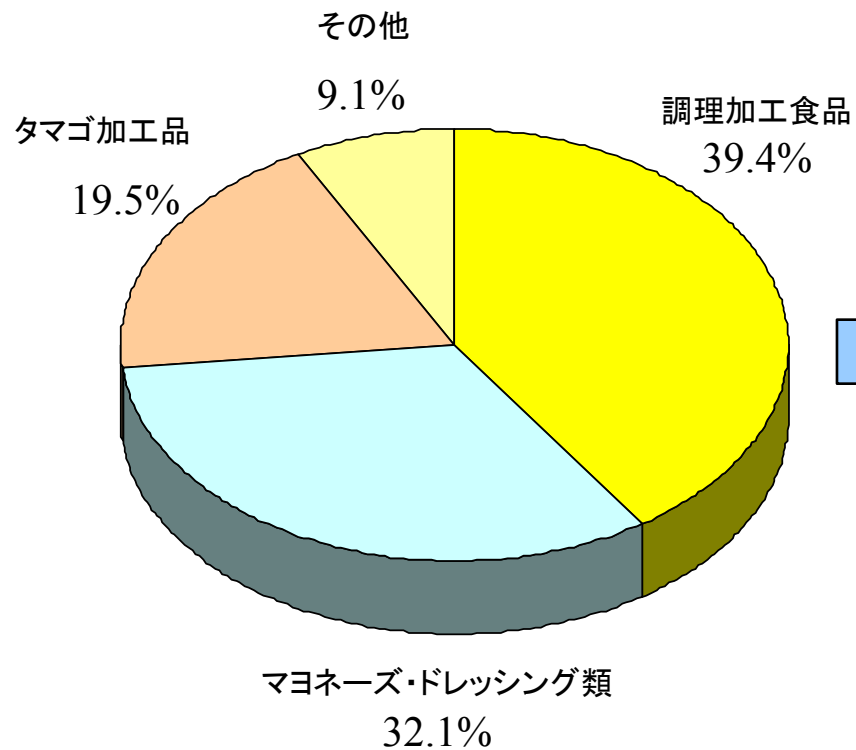
連結売上高の推移 (単位 百万円)

■ 内の数字は、連結経常利益

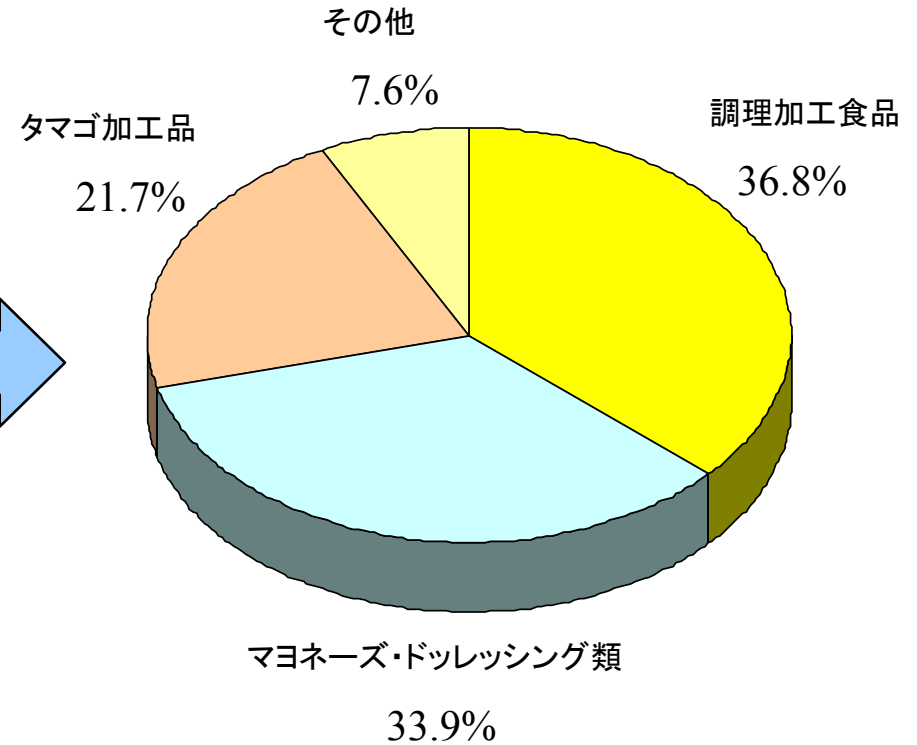
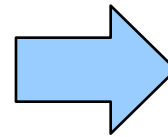


17年3月期は、構造改革(KRP520)の実施により、減収となりますが、利益は向上いたします。

連結売上構成比の比較



平成15年9月期



平成16年9月期



平成17年3月期 業績予想

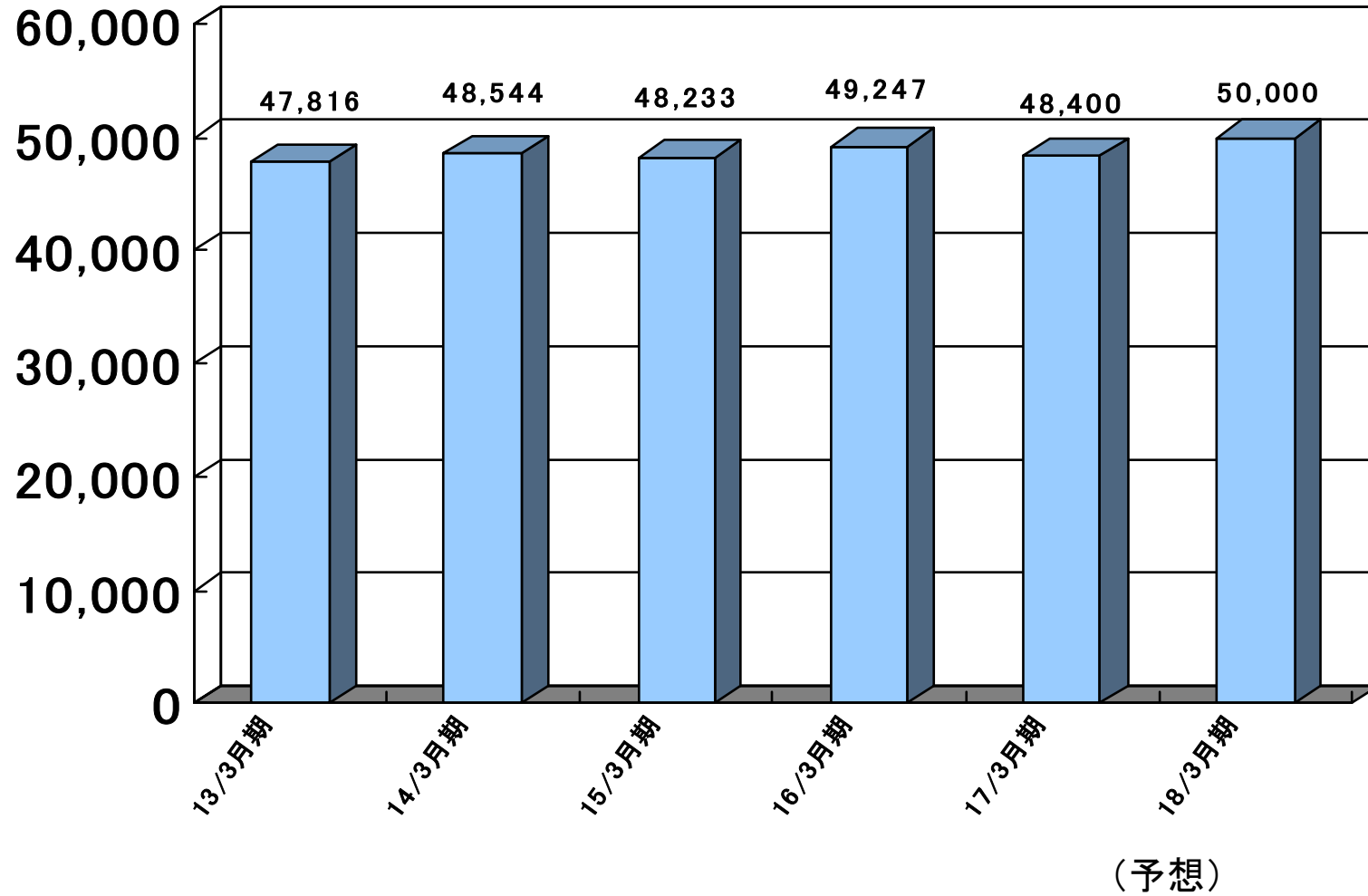
平成17年3月期の業績予想

(単位:百万円)

	16年3月期	17年3月期 (予想)	前期比	備 考
連結売上高	49, 247	48, 400	98.3%	不採算商品のカットによる
連結経常利益	1, 042	1, 200	115.2%	構造改革効果による
連結当期利益	－1, 269	125	—	構造改革効果による
単体売上高	46, 150	42, 000	91.0%	子会社への商流変更による
単体経常利益	908	1, 100	121.1%	構造改革効果による
単体当期利益	－1, 424	150	—	構造改革効果による

連結売上高の推移と予想

単位：百万円





ご参考



当社の経営方針・中期経営計画

当社グループでは、『心身（こころ・いのち・からだ）と環境』という理念を掲げ、食品メーカーとして『心を豊かにする食品作り』、『身体にやさしい食品作り』を進めると共に排水等の公害問題やゴミ処理の問題など環境問題に前向きに取り組み、企業として地域及び社会に貢献していきたいと考えております。

また、当社はサラダNo.1メーカーとしてお客様に求められる新鮮で美味しく安全な商品の提供に努めると共に、併せてメニュー提案も行い、商品開発から生産・販売まで自らの力で行うことを基本姿勢とし、事業活動を行っております。

私共にとって「サラダ」とは野菜を主材料として肉、魚、乳加工品等の食材をマヨネーズ・ドレッシング・タレソース等の調味料で仕上げた料理と考えております。

これからは、よりサラダが『食卓の主役であり、王様』になっていくと私共は考えております。

今後はこのビジョンに基づき、経営資源を集中的に配分し、企業価値を増大させることにより、お客様に信頼され、株主の皆様ごの期待に応え、環境問題も含め社会に貢献できる企業集団作りを目指して参ります。



当社グループは、中長期的に企業価値創造経営を引き続き下記のテーマによって実践して参ります。

- (1) 食品メーカーの責任として品質の確保を最重要課題と位置づけ、品質管理体制の強化を当社グループの総力を挙げて実施して参ります。
- (2) サラダNo.1 メーカーとしてブランドの活性化を図り、コストリーダーシップ戦略を実践して参ります。
- (3) 『心身と環境』をテーマに健康志向社会に対応すべく差別化商品の開発を進めて参ります。
- (4) グループ内の業務の連携強化とデータの共有化による情報基盤の整備を進めるべく、基幹系システムの再構築に着手いたしました。

また、当社では今期全社プロジェクトとして『ケンコー・リバイバル・プラン520（以下KRP520と言います。）』に着手いたしました。

当社はもともと業務用を中心としたお客様に、マヨネーズ・ドレッシング類に加え、サラダ類、卵加工品を製造販売し発展して参りました。ここ数年は、量販店等の加工食品売場に対する販売にも注力して参りましたが、『KRP520』における事業再編は、当社の創業以来の本業であります業務用をコアビジネスと位置付け、再度強化徹底して参ります。

当プロジェクトは、収益力の向上と財務体質の改善を図り、平成19年3月期までに経営基盤をゆるぎないものとし、次期三ヵ年計画での事業拡大に繋げていくことを目的としております。



①目標	平成18年3月期	連結売上高	500億円以上
		連結経常利益	20億円以上
		連結ネット有利子負債	100億円以下

②『K R P 5 2 0』の戦略的課題

A. 基盤事業への回帰（業務用を中心とした基盤事業の立て直し）

具体的には不採算商品や取引内容を見直すことにより、販売体制及び生産拠点の整理統合を行い、それに適した要員配置を行って収益を向上させて参ります。

また、それに伴い、不必要となった資産の整理統合を行い、財務内容の一層の健全化を推進して参ります。

さらに、経営組織体制についても時代の変化に対応しうるものにしていくため、役員、従業員に関する人事制度の改革を行なって参ります。

B. 新規事業展開、拡大の為の足固め

サラダ事業の一層の拡大を図る為、『サラダカフェ』ブランドでサラダの直売事業を展開して参ります。当面は関西圏を中心にデパート地下売場等で店舗展開を行い、ノウハウの蓄積を図り、全国に拡大して参ります。

更に、健康志向社会に対応した差別化商品の開発、製造、販売を行って参ります。



本資料に関するお問い合わせ

ケンコーマヨネーズ株式会社

TEL : 03-5317-1111